



文化財活用センター事業報告書 2022年度



独立行政法人国立文化財機構

文化財活用センター

文化財を1000年先、2000年先の未来に伝えるために

文化財は、長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた人類のたからものです。私たちは、文化財を通して、それをつくり、つかった人びとの暮らし、大切にしてきた思い、美しいと感じる場所に触れ、歴史やそこに流れる伝統的な価値観を学ぶことができます。それは、私たちがお互いを尊重し、豊かな人生を生きるための糧であり、新たな文化を創造する源になります。

この人類のたからものである〈文化財〉を1000年先、2000年先の未来に伝えることは、今を生きる私たちに課された重要な使命です。

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会を開発し、情報基盤の整備を目指します。これまでミュージアムを利用する機会に恵まれなかった人を含め、多くの人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財を活用した新たなコンテンツやプログラムの開発を行います。

文化財に関わるすべての人びとが、自ら発案し、その力を発揮する機会をつくるとともに、人材育成に取り組み、地域の活性化にも寄与します。



ミュージアムに関わる人はもちろん、一般市民も、企業やさまざまな社会的団体も、すべての人びとが、文化財を「守り」「伝える」ために、考え、参加する社会を作ります。



ご挨拶

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、2018年7月、独立行政法人国立文化財機構に設置された組織です。文化財の保存と活用の両方に留意しながら、多くの人に文化財を通して豊かな経験と学びを得る機会を提供することを旨として、さまざまな活動を行っています。

本報告書は、2022年度に実施した事業について、その概要と成果を記録、公開することを目的としています。

2022年度は、これまで〈ぶんかつ〉が民間企業等との連携の下で培ってきた、最先端技術を用いた体験型展示を東京国立博物館の創立150年記念に合わせて展開したほか、家庭用ゲーム機における文化財デジタルデータの利活用の提案など、気軽に文化財に親しんでいただくための事業を引き続き展開しました。

また、機構所蔵文化財の貸与促進事業や、保存環境に関する調査協力・研修等を通して、地域のミュージアムとの協力・連携に積極的に取り組むとともに、文化財の修理や新たな調査手法にかかるアプリ開発などを目的としたファンドレイジングを機構内の各施設と共同で行ない、多くの支援を頂戴しました。

〈ぶんかつ〉の活動にご協力いただいている関係機関、関係者の皆様、〈ぶんかつ〉が実施した各種事業にご参加・ご賛同いただいた多くみなさまに、あらためて心より感謝申し上げます。

2023年度は設立5周年を迎える節目の年となります。多くの方に文化財に親しみをもちいただき、文化財を未来へとつなぐ、というのが私たち〈ぶんかつ〉のミッションです。つないでいく主体が「人」であることを念頭に、文化財活用の中核となり、全国のミュージアムから頼っていただける存在となれるよう、邁進する所存です。

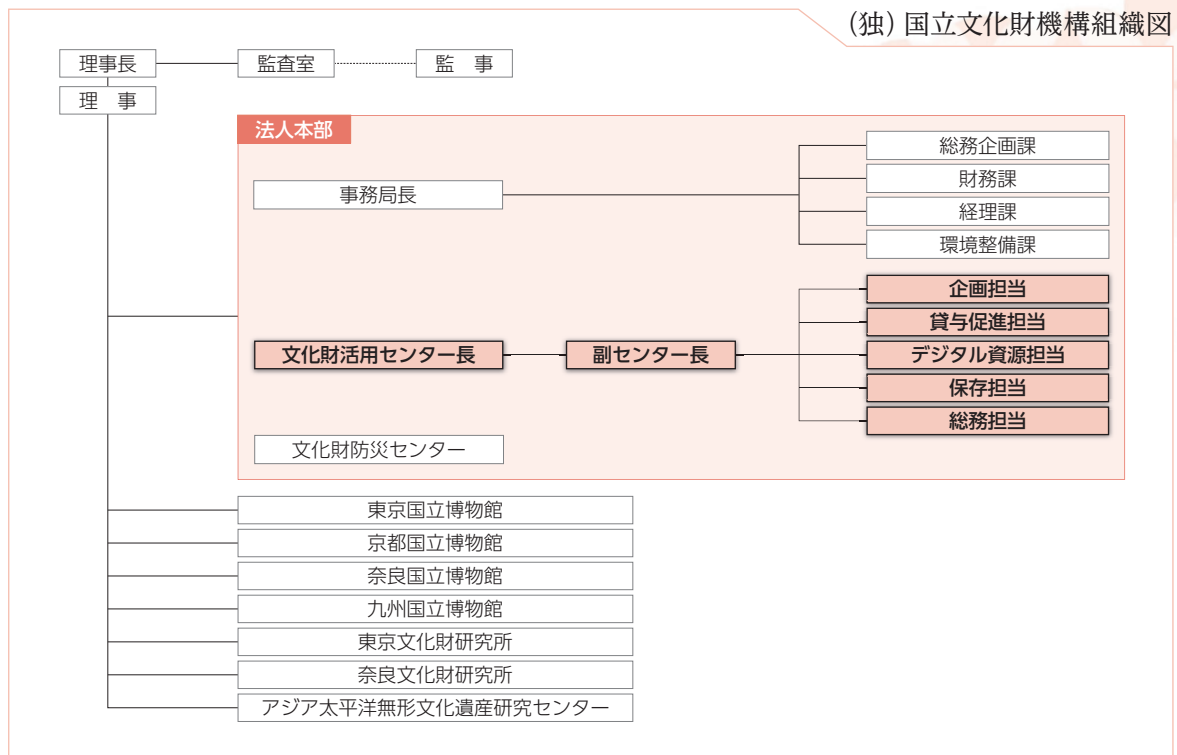
今後も引き続き、文化財をより身近に、「きれい!」「楽しい!」「面白い!」と感じていただけるよう、職員一丸となって尽力してまいります。常に「進化」し続ける〈ぶんかつ〉の取組にご期待ください。



文化財活用センター長 旭 充

組織図

(2023年3月31日時点)



概要

2022年度 未来の博物館と、その先へ。

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、あらゆる地域で、すべての人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるよう、さまざまな活動を行っている。そして、その体験と学びが、きれい! 楽しい! 面白い! であるように、新しいアイデアや技術を取り入れている。

■デジタル技術で「できたらいいな、こんなこと」を実現

東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」を開催し、最新の技術を用いて、「こんなことができたらいいな」をかなえる新たな鑑賞体験を提供した。第1会場では8K技術で遠く離れた法隆寺にいるかのように秘仏の救世観音を鑑賞し、国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」に描かれた400年前の京都の市中散策を大画面で楽しんでいただいた。第2会場では、高精細複製屏風にプロジェクションマッピングをして日本の四季を演出した。第3会場では、茶碗型のコントローラを手にとって名茶碗の魅力を味わい、懐中電灯型デバイスで仏像を照らし、その細部まで調査する体験を提供した。

また、法隆寺宝物館には常設の体験型展示「デジタル法隆寺宝物館」を開室。国宝「聖徳太子絵伝」と「法隆寺金堂壁画」の高精細画像を8Kモニターで鑑賞し、デジタルでなければできない発見の場としている。

■多くの人に文化財にふれていただく

多くの人に文化財にふれていただくために、〈ぶんかつ〉が輸送費等を支出して作品を貸し出す国立博物館収蔵品貸与促進事業を引き続き実施し、6機関に対し113件の作品を貸し出した。

文化財の複製を用いた教育プログラムであるアウトリーチプログラムは、〈ぶんかつ〉職員が各地の学校等に赴いて実施してきたが、広く活用していただくために、教員自身がプログラムを実施するノウハウを伝える動画を制作した。

世界中の人が愛好するゲームソフト「あつまれどうぶつの森」に〈ぶんかつ〉のスペースである“ぶんかつ島”をひらき、ゲーム愛好者のコミュニティで文化財の魅力を伝えることができた。

■日常業務の積み重ね

国立文化財機構所蔵の作品を横断的に検索可能なColBaseや、国宝と重要文化財の高精細画像を提供するe国宝は、データの追加、修正を日々行っているが、2022年度は全ての文字データを一括ダウンロードできる機能を加え、データベースの活用範囲を広げた。「ColBase」の画像データを自由に利用できる先進的な取り組みが評価され「デジタルアーカイブジャパン・アワード」を受賞した。

各地の博物館等で開催される展覧会は、国宝や重要文化財をはじめとした文化財を鑑賞する貴重な機会である。〈ぶんかつ〉は文化庁に協力して、よりよい展示環境を実現するための調査、助言をしている。2022年度は53施設を対象とした。

■支援者の輪を広げるファンドレイジング

東京国立博物館と共同で、「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」を実施した。1年にわたるプロジェクトであったが、9月に目標額に達し、その後も支援が続き最終的に約1540万円を受け入れた。また、奈良文化財研究所と「ひかり拓本プロジェクト」に取り組み、目標をこえる約650万円のご支援をいただいた。

支援の輪を広げることは、これからの博物館に必須であることから、国立文化財機構職員がファンドレイジングのさまざまな課題を検討する研究会を立ち上げた。

■今後の課題

特別企画「未来の博物館」は、〈ぶんかつ〉がこれまで開発してきたコンテンツの集大成となる企画であった。今後はそれらをさまざまな地域で、より広い層のニーズに応えられる包摂的な形に展開したい。2023年は〈ぶんかつ〉設立5周年で、新たな課題に取り組むのにふさわしい年である。既存事業の活用・展開と新規事業の開発をバランスよくすすめていく必要がある。

企画担当

企業等と連携して、先端的な技術を用いた高精細複製品やデジタルコンテンツを開発するとともに、体験型展示を国立博物館ならびに地域のミュージアムで展開。これまでミュージアムを利用する機会がなかった方々を含め全国の多くの人びとが、文化財に親しみ、豊かな体験と学びを得ることを目指す。

実施事業数
4件

■ 体験型展示(レプリカ・デジタルコンテンツ活用)

2018年の発足から2021年度までの活動をベースに、高精細複製品や映像等のデジタルコンテンツを使った体験型展示を東京国立博物館および地域のミュージアムで展開した。新規体験型コンテンツの開発に際しては最小限の接触による安全な体験展示となるよう設計し、新型コロナウイルス感染症対策を講じた。これまでの共同研究やコンテンツ開発の集大成となる特別企画「未来の博物館」を実施し、普段日本の古い美術品にふれる機会の少ない方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となることを意識し、親しみやすいコンテンツの制作と活用に取り組んだ。

① 東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」 デジタル技術と日本美術が融合した体験型展覧会

会期	2022年10月18日(火)～12月11日(日)(48日間)
会場	東京国立博物館 第1会場〈時空をこえる8K〉本館特別5室 第2会場〈四季をめぐる高精細複製屏風〉本館特別3室 第3会場〈夢をかなえる8K〉東洋館エントランス
体験者数	150,296人 ※内覧会参加者(1,040人)含
アンケート	体験は楽しかったか? :97.5% 鑑賞体験後、日本美術作品に対する興味は高まったか? :95.0% ※アンケートで5段階評価のうち4または5と回答した割合
主催	東京国立博物館、文化財活用センター、NHK(第1会場)
協賛	キヤノン株式会社(第2会場)、シャープ株式会社(第3会場)
概要	東京国立博物館の創立150年を記念し開催した特別企画。高精細複製品や8K映像、プロジェクションマッピングなどの最先端のデジタル技術と日本美術のコラボレーションにより、これまで東京国立博物館の展示室では不可能だった体験が実現した。超特大映像で映し出される国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」に描かれた400年前の京の都や、法隆寺夢殿や仏像を取りあげた「8K文化財」など、時代や場所の壁を越えて文化財と出会う〈時空をこえる8K〉、美しい日本の四季を4つの国宝の高精細複製屏風「花下遊楽図」「納涼図」「観楓図」「松林図」とプロジェクションマッピングで味わう〈四季をめぐる高精細複製屏風〉、名茶碗にさわって眺めたり、仏像にライトをあててそのひみつを調査したり、展示室の不可能を可能にした〈夢をかなえる8K〉で構成。〈時空をこえる8K〉では、聴覚障がいを持つ来館者向けに手話CGの実証実験、〈夢をかなえる8K〉では、関連イベントとしてワークショップ「ぶつぞう調査隊」を実施した。

東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」会場風景

<p>第1会場</p> <p>〈時空をこえる8K〉</p>   <p>手話CGの実証実験</p>	<p>第2会場</p> <p>〈四季をめぐる高精細複製屏風〉</p>   <p>屏風へのプロジェクションマッピング</p>	<p>第3会場</p> <p>〈夢をかなえる8K〉</p>   <p>関連プログラム実施風景</p>
--	---	--

評価

企業と連携した高精細複製品の製作や、先端技術を使った体験コンテンツの開発などを意欲的に行い、共同研究の成果として広く公開した。15万人を超える来館者が体験し、人びとが文化財に触れる機会を拡大することができた。

② 日本美術のとびら トーハク新時代プラン レプリカ・デジタル技術等を活用した新感覚の展示			
会期	2022年4月1日(金)～8月31日(水)、2023年3月27日(月)～		
会場	東京国立博物館 本館特別3室		
共催	東京国立博物館		
概要	2021年6月にトーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別3室に高精細複製品や非接触体験型展示による日本美術に親しむための常設体験展示室として設置した「日本美術のとびら」を継続して開室した(4月1日～8月31日、2023年3月27日～3月31日)。また、2023年1月2日～3月12日の期間は、「未来の博物館」第2会場で実施した〈四季をめぐる高精細複製屏風〉の内容をそのまま「日本美術のとびら 四季」として展開した。 【実施コンテンツ】 ■コーナー1：みる <日本文化紹介映像> 日本美術を知る旅のはじまりとして、映像「日本文化紹介映像 A GLIDE ON THE GREAT WAVE」(約8分)を上映。四季折々の風景や伝統行事を楽しむ人びとのいとなみによって育まれてきた日本人の美意識が変わることなく受け継がれていることを映像によって体験する。 ■コーナー2：たのしむ <日本美術のデジタル年表> 横幅14メートルのスクリーンをいっぱいを使い、およそ1万2000年前の縄文時代から日本の美をデジタル年表で紹介。オープニングムービーの後、東京国立博物館の代表的な16の作品が表示され、作品と連動した「わくわくポイント」に立つとポップアップされる作品を動かしたり拡大してみたりすることができる、非接触体験型展示。インタラクティブによって、作品を知ることができる。 ■コーナー3：かんじる <高精細複製品> 高精細複製品をガラスケースなしで細部までじっくり見ることによって、そこから広がる景色や空間、音や季節などを想像することを楽しむ体験展示。 ※「日本美術のとびら 四季」の内容は前頁①「未来の博物館」参照。		
評価	レプリカや最新映像技術等を活用した体験型プログラムを展開することができた。3つのコーナーで文化財について体験的に知ることにより、インバウンドを含めた新規来館者への導入的な役割を果たしている。また、開催期間中の2022年6月17日、2023年1月28日には来館者調査を実施。「東博の常設にデジタル展示があることについてどう思うか」を尋ねたところ、良いという回答率は6月の調査で100%、1月の調査で97.5%の結果が出ており、従来の展示に加え、新たなデジタルコンテンツによる展示は来館者層からも好評を得ている。		
③ デジタル法隆寺宝物館 デジタル技術が可能にする古代美術のあらたな鑑賞体験			
会期	2023年1月31日(火)～開室(展示内容は半年ごとに展示替)		
会場	東京国立博物館 法隆寺宝物館中2階		
体験者数	1月30日～2月28日(24日間) 体験者数累計2,956名(体験者(日本語)2,567名、(英語)389名) ※内覧会参加者104名含		
アンケート	日本文化への関心の喚起について、「高まった」「どちらかというが高まった」88%。 次回鑑賞意向について「鑑賞・参加したい」「どちらかというに鑑賞・参加したい」91% ※アンケート回答数502名		
主催	東京国立博物館、文化財活用センター		
協力	法隆寺、奈良国立博物館、国立情報学研究所高野研究室		
概要	常時展示がかなわない法隆寺ゆかりの名宝を、デジタルコンテンツや複製でくわしく鑑賞、体験する展示室。国宝「聖徳太子絵伝」と「法隆寺金堂壁画」をテーマに、臨場感あふれるグラフィックパネル(複製)と、大型8Kモニターで絵の詳細まで自在に鑑賞できるデジタルコンテンツ(日英2言語対応)、かつて人びとを魅了した伎楽という芸能の色鮮やかな世界観を示す伎楽面や装束の復元模造を組み合わせた展示。「令和4年度 日本博イノベーション型プロジェクト」事業に採択。内覧会には在京各国大使館、外国語メディアを招き、英語解説ツアーも実施した。また、展示内容に関連した展示映像・広報用配信動画を多言語で制作し、会場およびぶんかつYouTubeチャンネルで公開した。		
評価	保存上の理由から展示機会の限られる作品の複製製作や、8K映像など先端技術を使った体験コンテンツの開発を行い、広く公開した。コンテンツおよび解説の多言語化、海外メディアやSNS等からの国内外発信にも注力し、国際的な成果の発信とともに、学習機会の拡大や文化財に親しむ機会を創出することができた。		
④ 8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」 地域のミュージアムと共同した体験型コンテンツの公開			
会期	2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金)		
会場	愛知県陶磁美術館 第3展示室		
アンケート	とても楽しかった/楽しかった 93.1%		
主催	愛知県陶磁美術館		
体験型コンテンツ	制作:文化財活用センター 協力:九州国立博物館、愛知県陶磁美術館		
概要	愛知県陶磁美術館の特集展示「茶器済済」にあわせて、令和3年度文化庁受託事業「地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業(先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト)」により制作した鑑賞コンテンツ「ふれる・まわせる名茶碗」(2021年版)を、愛知県陶磁美術館において共同で公開した。		
評価	地域のミュージアムと連携し、展示と連動した体験型コンテンツの公開を実現した。体験者アンケートでは93.1%から「とても楽しかった/楽しかった」の評価を得ており、展示満足度や作品理解度の向上に貢献した。		

企業や各種団体と連携して、先端的な技術による文化財の複製の製作、照明や映像、8Kなどの最先端技術を用いたデジタルコンテンツの開発を継続して行ったほか、関連プログラムの実施や関連動画の制作を行った。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室での体験型企画においては、非接触型の体験を目指した。さらにQRコードによる作品解説へのアクセスや展示内容のSNS配信などオンラインによる情報発信も意識し、コンテンツ開発を行った。

ハンズオンレプリカ 国宝「埴輪 挂甲の武人」



	材質・技法	制作	備考
レプリカ			
絵画			
重要文化財「車争図屏風」狩野山楽筆	和紙に印刷	キヤノン	※1
国宝「花下遊楽図屏風」狩野長信筆	和紙に印刷	キヤノン	※1
国宝「納涼図屏風」久隅守景筆	和紙に印刷	キヤノン	※1
国宝「観楓図屏風」狩野秀頼筆	和紙に印刷	キヤノン	※1
重要文化財「風神雷神／夏秋草図屏風」尾形光琳筆／酒井抱一筆	和紙に印刷・金箔	キヤノン	※1
「焰」上村松園筆	絹に印刷	キヤノン	※1
「ウンスンカルタ」	紙に印刷	便利堂	ハンズオンレプリカ
国宝「地獄草紙」	紙に印刷	岡村印刷	ハンズオンレプリカ
国宝「辟邪絵」	紙に印刷	岡村印刷	ハンズオンレプリカ
国宝「聖徳太子絵伝」	絹に印刷	サンエムカラー	グラフィックパネル(複製)
重要文化財「法隆寺金堂壁画」	和紙に印刷	サンエムカラー	グラフィックパネル(複製・縮小)
考古			
国宝「埴輪 挂甲の武人」	樹脂製	トリアド工房	ハンズオンレプリカ
重要文化財「遮光器土偶」(恵比須田)	樹脂製	トリアド工房	ハンズオンレプリカ
国宝「袈裟褌文銅鐸(外縁付鈕2式銅鐸)」(追加加工)	樹脂製	武蔵野文化財修復研究所	ハンズオンレプリカ
「四区袈裟褌文銅鐸」	青銅製、鋳造	スタジオ三十三	ハンズオンレプリカ
彫刻			
国宝「薬師如来坐像」	樹脂製	中村恒克	ハンズオンレプリカ
工芸			
「自在蛇置物」	金属製	SELECT D(3Dデータ) 協栄産業(造形)	ハンズオンレプリカ(プロトタイプ)
デジタルコンテンツ			
国宝「救世観音像」(法隆寺)の8K映像および8K文化財コンテンツ	8K映像/3DCG・体験型	NHK、アフタイムージ	※1
国宝「救世観音像」(法隆寺)8K映像ナレーション手話CG(実証実験)	映像・体験型	NHK、NHKエンタープライズ	※1
国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」の8K映像コンテンツ	8K映像/CG・体験型	NHK、アフタイムージ	※1
デジタルハンズオンギャラリー(重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「櫻鳥糸肩赤威胴丸」、重要文化財「能面 小面」のハンズオンコンテンツ)	3DCG・体験型	NHK、ヒストリア	※1
国宝「納涼図屏風」の高精細複製品とプロジェクションマッピングによる体験型コンテンツ	プロジェクションマッピング・体験型	プロトタイプ	
国宝「観楓図屏風」の高精細複製品とプロジェクションマッピングによる体験型コンテンツ	プロジェクションマッピング・体験型	プロトタイプ	
懐中電灯型デバイスと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財 みほとけ調査」の改良	8K/3DCG映像・体験型	シャープ・シャープマーケティングジャパン	※1
東京国立博物館・NHKの共同研究「みんなの8K文化財」プロジェクト8K文化財コンテンツ 国宝「救世観音」、重要文化財「櫻鳥糸肩赤威胴丸」、重要文化財「能面 伝山姥」、重要文化財「能面 小面」	8K/3DCG映像・体験型	NHK	
VR等			
「東博のミイラ デジタル解剖室へようこそ」	VR映像	凸版印刷	TNM&TOPPANミュージアムシアター 2022年4月1日(金)～7月24日(日) ※1
「故宮VR 紫禁城・天子の宮殿 TNM & TOPPAN ミュージアムシアター編」	VR映像	凸版印刷	TNM&TOPPANミュージアムシアター 2022年7月26日(火)～10月16日(日) ※1
「雪舟 一 山水画を巡る 一」	VR映像	凸版印刷	TNM&TOPPANミュージアムシアター 2022年10月19日(水)～12月25日(日)、 2023年3月8日(水)～6月11日(日) ※1
「鳥獣戯画 超入門!」	VR映像	凸版印刷	TNM&TOPPANミュージアムシアター 2023年1月2日(月)～3月5日(日) ※1
その他			
「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」 としてキットを活用した教育プログラム	ゲームキット・体験型	奈良文化財研究所	
彫刻作品鑑賞の教育プログラム「ぶつぞう調査隊」	ワークシート、ワークショップ	文化財活用センター	
複製・デジタルコンテンツを活用した常設の展示スペース 「デジタル法隆寺宝物館」関連動画(7本)	展示映像・インターネット動画	NHKエデュケーショナル	
「ぶんかつアウトリーチプログラム」関連動画(2本)	インターネット動画	TFCプラス	

※1…共同研究および共同プロジェクトに基づく製作

複製活用事業

文化財の複製を博物館・美術館・企業などに貸し出した。高精細複製品を活用した「ぶんかつアウトリーチプログラム」では、首都圏を中心とした全国の小中高등학교、博物館、教員研修にて、教育プログラムを25件実施し、特別支援学校の生徒を含む2,792名の児童生徒・来館者が参加した。特別支援学校用のキット開発や、鑑賞授業の実践者向けの参考動画（本編・解説付番外編）制作も行い、幅広く展開することができた。また、奈良文化財研究所と協力し、2023年度から実施予定の「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」にかかるキット開発、参考動画制作を行うなど、機構内他施設との連携も促進した。

貸出件数
12件

① 文化財の複製・デジタルコンテンツ貸出事業

美術館・博物館には展示を目的とした文化財の複製およびデジタルコンテンツの貸出、企業には商用使用のための貸し出しを行った。



TEPIA先端技術館会場風景

● 文化財の複製貸出（申し込み件数11件 うち、有料4件）

2022年 4月	日経映像	松林図屏風
2022年 4月	三重県総合博物館	洛中洛外図屏風(舟木本)
2022年 6月	テレビマンユニオン	風神雷神図/夏秋草図屏風
2022年 7月	特定非営利活動法人吉野川市文化協会	風神雷神図/夏秋草図屏風、洛中洛外図屏風(舟木本)、松林図屏風、遮光器土偶(前後分割)
2022年 7月	米沢市上杉博物館	檜図屏風、松林図屏風、洛中洛外図屏風(舟木本)、納涼図屏風、風神雷神図/夏秋草図屏風、平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風
2022年 8月	舟形町中央公民館	遮光器土偶、みみずく土偶、土偶(上黒駒)、火焰型土器
2022年 9月	キャノン	風神雷神図/夏秋草図屏風
2022年11月	キャノン	洛中洛外図屏風(舟木本)
2023年 2月	J-MIND	松林図屏風
2023年 2月	東京文化財研究所	平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風
2023年 3月	文化庁	檜図屏風

● デジタルコンテンツ貸出（1件）

2022年3月～5月	TEPIA先端技術館	8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」(プロトタイプ版)
------------	------------	------------------------------

実施件数
25件

② 教育プログラムの提供

東京国立博物館と共同で「ぶんかつアウトリーチプログラム」25件を実施し、特別支援学校の生徒、教員研修参加者を含む2,792名が参加した(うち講師派遣あり22件、なし3件)。

また、2021年度の報告書を刊行した。

ぶんかつアウトリーチプログラムの授業の様子
(足立区立西保木間小学校)




品川区立大井第一小学校	見て、感じて、楽しむ松林図屏風	140名(6年生 4クラス) 2022年4月25日(月)
三重県立四日市高等学校	絵で読む平家物語(講師派遣なし)	105名(高校1年生選択授業8クラス) 2022年5月30日(月)、31日(火)
江戸川区立東小岩小学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風	66名(4年生2クラス) 2022年6月10日(金)
足立区西保木間小学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風	96名(4年生1クラス・5年生1クラス・6年生1クラス) 2022年6月21日(火)
中野区立美鳩小学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	116名(6年生3クラス) 2022年7月7日(木)
平安女学院中学高等学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風(講師派遣なし)	202名(中学校1～3年生) 2022年7月11日(月)～7月15日(金)
つばさ大森教室	自分だけの松林図屏風をつくってみよう! (改変対応)	5名(小学校4年生～中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 2022年7月13日(水)
舟形町中央公民館	自分だけの松林図屏風を作ってみよう!	18名 2022年8月7日(日)
青森県総合学校教育センター	自分だけの松林図屏風をつくってみよう! +見て、感じて、楽しむ 松林図屏風+焔(教員研修)	25名(研修参加教員)+5名(秀明大学学生・教員)+9名(青森県立美術館教育普及担当・鑑賞サポーター) 2022年8月18日(木)～8月19日(金)
米沢市上杉博物館	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	ファミリー3組(8名)+高校生以上7名+チルドレンキュレーター4名 2022年8月27日(土)～8月28日(日)
中野区立第二中学校 ※特別支援学級	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風(改変対応)	14名 2022年9月8日(木)
つばさ蒲田教室	自分だけの松林図屏風をつくってみよう +見て、感じて、楽しむ松林図屏風(改変対応)	6名(小学校4年生～中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 2022年10月6日(木)
世田谷区立砧中学校 ※特別支援学級含む	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風(改変対応)	200名(中学校1年生)+30名(特別支援学級) 2022年10月12日(水)～10月13日(木)
京都府立福知山高等学校・附属中学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風(講師派遣なし)	310名(中学校1・2・3年生、高校生の希望者) 2022年10月24日(月)～11月2日(水)
東星学園中学校高等学校	自分だけの松林図屏風をつくってみよう!	96名(中学校1・2・3年生、高校2年生) 2022年11月8日(火)


つばさ池上教室	自分だけの松林図屏風をつくってみよう! (改変対応)	11名(小学校4年生~中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 2022年11月16日(水)
世田谷区玉川中学校	絵で読む平家物語	127名(中学校2年生4クラス) 2022年11月30日(水)
つばさ羽田教室	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風(改変対応)	9名(小学校4年生~中学校3年生:当日に通室した児童・生徒) 2022年12月8日(木)
芝中学校・高等学校	絵で読む平家物語(講師派遣なし)	中学校1年生~高校3年生 39名(特別授業希望者) 2022年12月15日(木)~12月27日(火)
豊島岡女子学園中学校	絵で読む平家物語	264名(2年生6クラス) 2023年1月12日(木)~1月13日(金)
葛飾区立川端小学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風	57名(小学校5年生2クラス) 2023年1月19日(木)
田園調布学園中学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風	215名(中学校3年生5クラス) 2023年2月9日(木)
筑波大学附属大塚特別支援学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風(改変対応)	17名(中学校1年生~3年生) 2023年2月24日(金)
三重県立四日市高等学校	見て、感じて、楽しむ松林図屏風	21名(1年生特別授業) 2023年3月2日(木)
目黒区立大鳥中学校	見て、感じて、楽しむ風神雷神図/ 夏秋草図屏風	570名(中学1年生 5クラス 約190名 中学2年生5クラス 約190名 中学3年生 5クラス 約190名) 2023年3月7日(火)~3月14日(火)

■ 企業との連携


企業と連携して、先端的な技術を使った文化財活用方法の開発、文化財の複製やデジタルコンテンツの制作を行うとともに、その成果の公開を進めた。

事業名称	「文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト」	
連携開始	2018年	
参加事業者	キャノン	
目的	・高精細複製品利用による、文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・教育プログラムを実施するファシリテーターなど、文化財の活用に係る人材の育成 ・高精細複製品について、原本の再現性、耐久性、活用の際の利便性の向上	
活動概要	高精細複製品制作:6件	


高精細複製品「観楓図屏風」

事業名称	「バーチャルリアリティに関する共同プロジェクト」	
連携開始	2018年	
参加事業者	凸版印刷・東京国立博物館	
目的	・デジタル技術による文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・デジタル技術を活用した文化財の鑑賞方法の開発	
活動概要	VR作品監修:4件	

東京国立博物館TNM&TOPPANミュージアムシアター「雪舟 一山水画を巡る」

事業名称	「8Kモニターを用いた文化財の活用方法の開発に関する共同プロジェクト」	
連携開始	2019年	
参加事業者	シャープ・シャープマーケティングジャパン	
目的	・8Kモニターを活用した文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・8Kモニターを活用した文化財の鑑賞方法の開発とデバイス・コンテンツの制作	
活動概要	コンテンツの開発と公開:1件 8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財 みほけ調査」の改良および「未来の博物館」第3会場「夢をかなえる8K」(東京国立博物館)での公開	

シャープとの共同研究「みほけ調査」

事業名称	「東京国立博物館・NHK共同研究 「みんなの8K文化財」 プロジェクト」	
連携開始	2020年	
参加事業者	NHK・東京国立博物館 (マネージメント:文化財活用センター)	
目的	・最先端のスキャナーやフォトグラメトリ技術(多方向から撮影した画像を統合し3D化する技術)を使用した3DCGの「8K文化財」の制作 ・「8K文化財」を活用した放送番組の制作と放映、展覧会などのイベント実施、情報通信ネットワークなどでの発表 ・制作した8K文化財コンテンツの活用	
活動概要	・東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」第1会場(時空をこえる8K)での公開を目的とした体験コンテンツを制作した。同コンテンツは、教育コンテンツを対象とした国際コンクール「日本賞」においてデジタルメディア部門の最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞した。 ① 空間をこえた出会い—法隆寺 謎に満ちた金色の秘仏【救世観音】 ② 時間をこえた出会い—洛中洛外 400年前の京都へ【洛中洛外図屏風(舟木本)】 ③ デジタルハンズオンギャラリー—【遮光器土偶、能面(小面「天下一河内」焼印、檜島糸肩赤威胴丸)】 ・コンテンツ活用実績:36件 「8K文化財」コンテンツおよび関連番組の制作:13件、イベント、インターネットなどでのコンテンツの公開(東京国立博物館「未来の博物館」、Inter BEE、超体験NHKフェス、NHK Techであそぼ展ほか) 23件	

8K文化財を用いたデジタルハンズオンギャラリー

貸与促進担当

国立博物館は、従来から収蔵品を自らの施設で展示公開するだけでなく、外部のミュージアムにも貸し出し、国内外の展覧会に協力してきた。〈ぶんかつ〉は、日本とアジアの歴史・文化をよりいっそう広く伝えるため、国立博物館の収蔵品貸与の促進に取り組む。

貸与促進事業

実施館
6件

貸与件数
113件

来場者数
43,522人

国立博物館と共同で、日本とアジアの歴史・伝統文化の発信ならびに地方創生・観光振興、次世代への文化財の継承に寄与することを目的として、国内各地のミュージアムに対して国立博物館の収蔵品を貸し出し、それにかかる作品輸送費等を支出する「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を実施した。

この事業は、2017年度に東京国立博物館が開始したもので、2018年度開催分から文化財活用センターとの共同事業となり、2021年度からは、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館収蔵の文化財も対象となった。2022年度は、刈谷市歴史博物館等6施設に、計113件の文化財を貸し出し、総計43,522人の方が鑑賞の機会を得た。事業のより幅広い層への周知のため、実施館への広報支援も行った。鹿児島県歴史・美術センター黎明館については、本事業による支援によって、同館として初めての取り組みとなるモバイルアプリへの広告掲載を行うことができた。また、貸し出し可能な文化財の充実をはかるため、本格修理や応急修理を実施した。



沖縄県立博物館・美術館復帰50年展「琉球—美とその背景—」展示風景

実施館	刈谷市歴史博物館（愛知県）	
展覧会名称	「伊勢物語とかきつばた」	
会期	2022年4月23日～6月5日	
貸与件数	3件	
来場者数	2,819人	
満足度	94.7%	

実施館	島根県立古代出雲歴史博物館（島根県）	
展覧会名称	「ハニワの世界へようこそ」	
会期	2022年7月1日～8月28日	
貸与件数	9件	
来場者数	11,403人	
満足度	88.8%	

実施館	足利市立美術館（栃木県）	
展覧会名称	「あしがの歴史と文化再発見！ —鎌倉殿の義弟、足利義兼の祈り 大日如来坐像—」	
会期	2022年7月30日～10月10日	
貸与件数	16件	
来場者数	6,735人	
満足度	95.0%	

実施館	鹿児島県歴史・美術センター黎明館（鹿児島県）	
展覧会名称	「茶の湯と薩摩」	
会期	2022年9月22日～11月6日	
貸与件数	30件	
来場者数	6,280人	
満足度	—	

実施館	滋賀県立安土城考古博物館（滋賀県）	
展覧会名称	「里帰り！日本最大の銅鐸 — 太古の響きを安土の地で —」	
会期	2022年10月8日～11月20日	
貸与件数	6件	
来場者数	4,232人	
満足度	96.7%	

実施館	沖縄県立博物館・美術館（沖縄県）	
展覧会名称	復帰50年展「琉球—美とその背景—」	
会期	2022年10月14日～12月4日	
貸与件数	49件	
来場者数	12,053人	
満足度	92.4%	

保存担当

博物館や美術館等、文化財保存施設における、展示・収蔵環境管理に関する相談対応、改善のための調査、技術支援、また、研修会や講習会の開催などを通じて、質の高い文化財の保存と活用の両立に寄与する。

対応件数
159件

保存環境に関する相談対応、調査協力など

博物館・美術館等からの展示・収蔵環境に関する相談に対応し、必要に応じて現地調査、改善のための協力を行った。また、文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国指定品の公開を予定している博物館・美術館を対象とした保存環境調査について、文化庁からの協力依頼を受けて行った。

● 内容等

- 文化財の保存環境管理、改善に関する相談対応(87件 うち10件に対して現地調査を実施)
- 新築・増改築を行う施設の設計、設備等に関する対面、またはリモートでの協議(15件)
- 国指定品の所有者以外による公開に関わる資料保存環境調査(42件)
- 公開承認施設申請に係る環境調査や改善への助言(2件)
- 令和4年度貸与促進事業内定施設の保存環境調査(4件)



収蔵庫の空気環境調査協力

保存環境に関する研修会等人材育成事業

学芸員や自治体の文化財行政担当者に、文化財保存施設における環境管理の基礎を学んでいただくことを趣旨とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)」、および、保存管理専従者や、文化財保存の研究者などを対象とした、環境調査や管理に関する深い知識を学ぶための「保存環境調査・管理に関する講習会」をそれぞれ開催した。

研修会等	博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)
主催	文化財活用センター
参加者数	各20名
期間	2022年8月1日～8月5日 2023年1月23日～1月27日

研修会等	第4回保存環境調査・管理に関する講習会 -室内汚染物質の精密測定-
主催	文化財活用センター、東京文化財研究所
参加者数	19名(うち15名リモート参加)
期間	2022年8月23日

研修会等	第5回保存環境調査・管理に関する講習会 -クロスから放散するアンモニアについて
主催	文化財活用センター、東京文化財研究所
参加者数	19名(うち17名リモート参加)
期間	2023年3月6日



「保存環境調査・管理に関する講習会」の様子

保存環境に関する基礎研究等業績

1. “新型コロナウイルス感染症対策に用いられる消毒剤が文化財へ与える影響についての調査事例”(間瀬創、吉田直人)
文化財保存修復学会第44回大会
2. “博物館等における新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談窓口の開設からこれまで”(吉田直人、間瀬創)
文化財保存修復学会第44回大会
3. “文化財活用センターによる保存環境に関する相談対応について”(間瀬創)
文化財の虫菌害83号(公益財団法人 文化財虫菌害研究所)
4. “文化財をまもり、いかす-文化財活用センター保存担当の来し方行く末-”(吉田直人)
文化財をしらべる・まもる・いかす-国立文化財機構保存・修復の最前線-(アグネ技術センター、共著)
5. “博物館・美術館の保存環境を整える-文化財活用センターの協力事業-”(間瀬創)
文化財をしらべる・まもる・いかす-国立文化財機構保存・修復の最前線-(アグネ技術センター、共著)

デジタル資源担当

機構各施設の保有する文化財に関わるテキスト、画像といった情報を連携させ、デジタル資源化を推進するとともに、情報の利活用を促進する。

文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

① ColBase(国立文化財機構所蔵品統合検索システム)

昨年度に導入した「作品種別」の整備を進めるとともに、画像の追加、解説文等のデータ更新を行った。解説文等のテキストデータについて、多言語を含む「データセット」として一般利用者が一括でダウンロードできるようにした。また、「ジャパンサーチ」の運営主体であるデジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会より、「デジタルアーカイブジャパン・アワード」を受賞した。

Nintendo Switchの人気ゲームソフト「あつまれどうぶつの森」上に、ColBaseの画像データを活用して「ぶんかつ島」を制作・公開しゲームを通じて文化財に親しんでもらうとともに、ColBaseの利用促進を図った。

● 掲載件数(2023年3月末)

	日本語	英語	中国語	韓国語
総件数 (総作品数)	133,102 (145,983)	32,144 (39,661)	12,346 (14,095)	12,804 (14,524)
解説掲載件数	14,810	6,003	4,063	4,089
画像掲載件数(*1)	32,011	21,175	9,094	9,194

*1 2022年度画像追加件数:6,006件 63,379枚



「ぶんかつ島」広報用動画

② e国宝(国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財 デジタル高精細画像)

新規作品を追加するとともに、解説文の更新、多言語解説の翻訳見直しを行った。また管理機能を改修し、効率的なデータ更新を行えるようにした。

アクセス数	818,665件(2023年3月末)
掲載件数	1,141件(2023年3月末)



「e国宝」トップページ

総務担当

企業、各種団体、および広く一般の個人を対象としたファンドレイジング活動を通して、多くの人が文化財に親しみをもつとともに、文化財の保存と活用に参画する機会を創出する。

ファンドレイジング事業

① 寄附ポータルサイトの運営

機構各施設の寄附受入に関する情報を集約し、クレジットカード・銀行振込での決済を可能とするサイト「国立文化財機構寄附ポータルサイト」を継続して運営するとともに、2023年3月に新設された「文化財防災救援基金」の受入を開始した。

国立文化財機構寄附ポータルサイト	2022年度寄附金額 10,875,000円 (開設からの総計 16,789,000円)
------------------	---



国立文化財機構寄附ポータルサイトトップページ

② 踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト

東京国立博物館の創立150年を記念し、東京国立博物館と共同で「踊る人々」と「見返り美人図」の修理費等1,000万円を募る事業を実施した。寄附ポータルサイト、館内募金箱、企業協賛などの寄附により、2022年9月に目標金額を達成した。なお、目標超過額については東京国立博物館の他の文化財修理に充てる。引き続き修理の進捗等をブログやSNS、寄附者向けのメールマガジンなどを通じて発信していく。



踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト チラシ

踊る埴輪&見返り美人
修理プロジェクト

募集期間: 2022年4月1日~2023年3月31日
目標額: 10,000,000円
受入総額: 15,396,445円

③ ひかり拓本プロジェクト

奈良文化財研究所と共同で、市販の機材だけで石碑の判読を容易にする技術「ひかり拓本」をスマホアプリに仕立て、公開するためのクラウドファンディングをクラウドファンディングサービス「READYFOR」のウェブサイト上で実施した。当初目標の380万円を開始2週間で集め、第2目標の500万円も期間内に達成した。今後は寄附者への返礼品の発送等を行う。

ひかり拓本プロジェクト

募集期間: 2022年10月5日~2022年12月2日
目標額: 3,800,000円(当初目標)→5,000,000円(第2目標)
受入総額: 6,530,000円



左: 通常のカメラで撮影した画像
右: 「ひかり拓本」を使って作成した画像

④ ファンドレイジングの活性化に向けた取組

● ファンドレイジング勉強会の開催

外部資金獲得に向けた取組を機構全体で活性化させるため、ファンドレイジング事業実施に関する情報共有等を行うための勉強会を立ち上げた。日本ファンドレイジング協会代表理事の鶴尾雅隆氏を講師として招聘し「文化財の保存と活用が進化するファンドレイジング」をテーマに講演いただいた。

● 「寄附したくなる募金箱」への改修と設置

機構各施設において、募金箱を契機とした寄附募集に関する広報発信の強化に取り組んだ。2022年度は、奈良文化財研究所の平城宮跡資料館と東京国立博物館に募金箱を改修・設置した。



文化財保存修復研究基金募金箱
(奈良文化財研究所)

● 遺贈にかかるパンフレットの作成

遺言によって財産の全部または一部を寄附する「遺贈」について、他機関における先事例を参考に、機構としての遺贈制度の概要、留意点、遺言書の書き方などをまとめ、冊子(PDFデータ)の提供を行った。



遺贈・相続財産寄附のご案内

広報実績

(集計期間2022年4月1日—2023年3月31日)

ぶんかつウェブサイト (<https://cpcp.nich.go.jp/>)

ページビュー数 314,863 (セッション数:166,535)

閲覧数の多いページ

1. 未来の博物館	20.32%
2. トップページ	6.73%
3. 第1会場 時空をこえる8K (未来の博物館)	3.30%
4. 展示・イベント	2.56%
5. 第3会場 夢をかなえる8K (未来の博物館)	1.83%

訪問者言語

日本語	92.86%
英語	3.82%
その他	3.32%

主な更新事項

- 「未来の博物館」の特設ページを多言語(日英)で作成

ぶんかつブログ (<https://cpcp.nich.go.jp/modules/rblog/1/>)

進行中の事業や活動の舞台裏、文化財にまつわる基礎知識などを各担当のスタッフが紹介。

投稿一覧 (2022年4月～2023年3月 31件)

- 2022年度貸与促進事業による6つの展覧会をご紹介します
- 文化財の魅力を伝えるために
- 読み継がれ、広がる王朝文学の世界。伊勢物語とかきつばた
- 〈冬木小袖〉修理レポート・4【続・補修作業】
- 修理プロジェクト・「踊る埴輪」の魅力を深掘り!
- ぶんかつ4年目の歩みと今後の展望(前編)
- ぶんかつ4年目の歩みと今後の展望(後編)
- 古代出雲歴史博物館の「特別展 ハニワの世界へようこそ」
- 古代出雲歴史博物館の「特別展 ハニワの世界へようこそ」(2)
- 「ぶんかつ島」へようこそ! 「あつ森」で日本美術 前編
- 埴輪 二人童女の再会「あしかがの歴史と文化 再発見」
- 「見返り美人ミク」で修理プロジェクトを応援!
- 「ぶんかつ島」へようこそ! 「あつ森」で日本美術 中編
- 「ひかり拓本」で石碑の文字を誰でも簡単に見える化
- 歴史の動向、文化交流に育まれた「茶の湯と薩摩」
- 【未来の博物館】高精細複製屏風で四季と日本美術を感じる
- 日本最大の銅鐸が里帰り! 一大岩山銅鐸、安土へー
- 【未来の博物館】みほとけ調査とぶつぞう調査隊
- 沖縄でみる琉球展(1)ー文化財を次世代に伝えるために
- 沖縄でみる琉球展(2)ー工芸の美と技が伝える想い
- 【未来の博物館】最新の8K映像技術で作品を360°堪能する
- 「ぶんかつ島」へようこそ! 「あつ森」で日本美術 後編
- 〈冬木小袖〉修理レポート・5【仕立て】
- ColBaseの舞台裏 デジタルの裏側はアナログ?
- 〈冬木小袖〉修理レポート・6【新調裏地】
- 「デジタル法隆寺宝物館」公開!
- 幻の法隆寺伎楽装束を復元!! (前編)
- 幻の法隆寺伎楽装束を復元!! (後編)
- ColBaseの古写真でタイムトラベル!
- 貸与促進事業 まもなく受付開始! よくある質問Q&A
- 〈冬木小袖〉修理レポート・番外編【指定品修理について】

SNS発信

ぶんかつや機構内他機関の展示・イベント、研修等、旬な情報を、SNSを活用して発信

- Twitter@cpcp_nich
…2,829フォロワー(+816) / 総ツイート数 1175 ※RT含
 - Instagram@cpcp_nich
…644フォロワー(+236) / 総投稿数 309
 - YouTube ぶんかつ【文化財活用センター】
…チャンネル登録者数 634人(+158) / 総投稿数 36
- * ()内は2021年度との比較

プレスリリース配信・記者内覧会等の実施

プレスリリース配信 (12件)

- 2022年4月1日 東京国立博物館所蔵の名品2件の修理を行うファンドレイジング事業「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」を4月1日より開始
- 2022年5月20日 この秋、デジタル技術と日本美術体験が融合した特別企画「未来の博物館」を東京国立博物館で開催

- 2022年8月18日 文化財活用センターが『あつまれ どうぶつの森』で「ぶんかつ島」の夢番地を8月18日公開「埴輪 踊る人々」や「見返り美人図」など、日本美術をテーマにした島で遊ぼう!
- 2022年8月31日 「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」、「初音ミク」とのコラボレーショングッズを9月6日(火)から販売開始
- 2022年9月28日 デジタル技術と日本美術体験が融合した展覧会「未来の博物館」東京国立博物館にて10月18日から開催
- 2022年10月5日 奈良文化財研究所、スマホで石碑を判読できる「ひかり拓本」アプリ公開のためのクラウドファンディングを10月5日開始
- 2022年11月29日 東京国立博物館と凸版印刷、日本美術に没入するメタバース展覧会を開催 バーチャル展示「エウレカトーハフ!●89」を開催。メタバース空間に再現された東京国立博物館でアバターを通じたバーチャルならではの鑑賞体験。
- 2023年1月10日 地域ゆかりの文化財を全国の美術館・博物館へお貸し出し!令和6(2024)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館募集開始
- 2023年1月16日 デジタル技術が可能にする古代美術のあらたな鑑賞体験<<デジタル法隆寺宝物館>> 東京国立博物館にて1月31日より開室
- 2023年1月16日 “Opening Jan. 31, 2023 The Digital Gallery of Hōryūji Treasures at Tokyo National Museum, Cutting-edge Technology Brings Treasured Antiquities into Clear View” (「デジタル法隆寺宝物館」海外メディア向け英文プレスリリース)
- 2023年2月10日 東京国立博物館所蔵の国宝をテーマとした バーチャル展示「エウレカトーハフ!●89」全展示空間公開開始 & NFT アート制作アーティスト決定
- 2023年3月23日 2023(令和5)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業 実施対象館が決定! 一国立博物館所蔵の文化財72件が島根・長野・山口・広島・兵庫・福岡へー

記者内覧会等の実施 (2件)

- 2022年10月17日 東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」報道内覧会
- 2023年1月30日 デジタル法隆寺宝物館 報道内覧会 / 外国語メディア向け報道内覧会

動画制作 (19件)

YouTube**ぶんかつ**【文化財活用センター】チャンネル (<https://www.youtube.com/c/cpcpnich/channels>)にて公開。

- 2022年8月18日 【あつまれどうぶつの森】夢番地公開! 「ぶんかつ島」案内 日本美術をテーマにした島で遊ぼう!
- 2022年9月22日 【あつまれどうぶつの森】1分で「ぶんかつ島」案内! 日本美術をテーマにした島で遊ぼう!
- 2022年10月4日 【踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト】目標金額を達成しました。そして修理プロジェクトは続きます。
- 2022年11月9日 【展覧会紹介】未来の博物館_東京国立博物館創立150年記念特別企画[2022年12月11日まで開催](ショート動画)未来の博物館_1分ver.
- 2022年11月9日 【デジタル法隆寺宝物館】法隆寺一よみがえる古代の至宝1
- 2023年1月27日 【デジタル法隆寺宝物館】国宝 聖徳太子絵伝一よみがえる古代の至宝2
- 2023年1月27日 【デジタル法隆寺宝物館】法隆寺金堂壁画一よみがえる古代の至宝3
- 2023年1月27日 【デジタル法隆寺宝物館】伎楽と法隆寺宝物館一よみがえる古代の至宝4 (展示映像)【デジタル法隆寺宝物館】法隆寺と国宝「聖徳太子絵伝」
- 2023年1月27日 (展示映像)【デジタル法隆寺宝物館】法隆寺宝物館と伎楽
- 2023年1月27日 (ショート動画)日本語-1、ENGLISH-1

14,15	2023年1月27日	【デジタル法隆寺宝物館】 国宝「聖徳太子絵伝」と伎楽_1分ver. (ショート動画)日本語-2、ENGLISH-2
16	2022年2月8日	【デジタル法隆寺宝物館】 法隆寺金堂壁画と伎楽_1分ver. 【番外編】解説付ぶんかつアウトリーチプログラム 「見て、感じて、楽しむ風神雷神/夏秋草図屏風」
17	2022年2月8日	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神/夏秋草図屏風」
18	2022年3月31日	【あつまれどうぶつの森】 あつ森でわかる!着物と恋心 日本美術をテーマにした「ぶんかつ島」を舞台に 研究員が解説!
19	2022年3月31日	(ショート動画)【あつまれどうぶつの森】 あつ森でわかる!着物と恋心

地域での広報

貸与促進事業実施館地域での広告

実施館 : 鹿児島県歴史・美術センター黎明館

掲出媒体等 : 「南日本新聞」広告掲載、ポスター制作(※)、チラシ制作(※)、スマホアプリへの広告掲載(9月5日~11月5日)(※)、屋外看板設置(※)、「フェリア新聞」広告掲載(※)

(※)は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出

パンフレット・チラシ等、印刷物制作 (8件)

- 文化財活用センター事業報告書 2021年度【報告書】
- 2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書【報告書】
- 2024年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館募集【チラシ】
- デジタル法隆寺宝物館【リーフレット】※日英中韓 4言語
- 2023年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集【チラシ】
- 2023年度なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム募集【チラシ】
- あなたのもとに国宝が!?ぶんかつ文化財複製のお貸出し【チラシ】
- 2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」【報告書】

職員

(R5.3.31時点)

文化財活用センター長 旭 充
副センター長 丸山 士郎

企画担当

課長 藤田 千織
室長 高橋 美奈子
主任研究員 西木 政統
研究員 飯田 茂雄
研究員 小島 有紀子
松嶋 雅人
川岸 瀬里
専門職 高木 結美
専門職 松沼 穂積
アシエイトフェロー 加納 彩子
事務補佐員 清水 澄子

貸与促進担当

課長 沖松 健次郎
室長 井出 浩正
室長 小山 弓弦葉
主任専門職 田邊 留美子
関 紀子
アシエイトフェロー 曾田 めぐみ (~2022年5月31日)
アシエイトフェロー 藤原 千冬 (2022年7月1日~)

デジタル資源担当

課長 村田 良二
室長 阿児 雄之
専門職 竹内 俊貴
事務補佐員 小田 千奈津
事務補佐員 川合 加古子

保存担当

課長 吉田 直人
研究員 間淵 創
研究員 野中 昭美
事務補佐員 木下 美緒 (~2022年4月30日)
事務補佐員 内藤 百合子 (2022年6月1日~)

総務担当

課長 坂本 真樹
係長 田村 淳朗
係員 松本 日向子
専門職 古山 珠美
事務補佐員 村山 舞子
事務補佐員 岡崎 瑠美 (2023年1月1日~)

文化財活用センター事業報告書 2022年度

発行日 令和5年(2023)6月30日

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9(東京国立博物館 東洋館5階)

デザイン・印刷 株式会社 メディア グラフィックス